



2023 年冬季ボーナスアンケート調査（宮崎県内） ～インターネットアンケート調査～

当研究所は、宮崎県内における消費動向や生活実感などを探るため、ボーナスアンケート調査を実施している。今回、県内の給与所得者等を対象にインターネットアンケートによる冬季ボーナス調査を実施し、結果をまとめた。

【調査結果の概要】

1. 冬季ボーナスは、全体の 70.7%が「支給される」と回答した。増減見込みは「増えそう」「同じくらい」が上昇し「減りそう」は低下した。
2. ボーナスの見込み額は「10 万円～ 30 万円未満（42.2%）」が最も多かった。
3. 使いみちは「貯蓄（68.4%）」、貯蓄の目的は「家計の補充（41.1%）」、貯蓄の方法は「定期性預貯金（52.6%）」が最も多かった。
4. クレジット・ローン返済は、「自動車（48.0%）」が最も多かった。
5. ボーナスでの購入予定品は「衣料品（56.3%）」が最も多く、買物予定先は「ショッピングセンター（大型店）（54.7%）」がトップだった。
6. 最近 1 年間の県外〔九州 5 市（注 1）〕での買物頻度では、全ての市で「1 回」、交通手段では「乗用車」が最も多かった。
7. 今後の旅行・レジャーの行き先は「九州（除く沖縄）（71.1%）」が最も多かった。
8. 生活状況は「変わらない（52.2%）」が最多で、DI（注 2）は「▲31.8」と前年比ほぼ横ばいの+0.7 ポイント（以下「P」）となった。
9. 品目別の物価状況 DI（注 3）は「食品（生鮮食品を除く）（+89.1）」が最も高い。
10. 投資では、「投資をしている」「興味がある」を合わせた回答が全体の約 6 割で、投資している（してみたい）商品は「投資信託（56.4%）」が最も多かった。

注 1）福岡市、北九州市、大分市、熊本市、鹿児島市の 5 市

注 2）生活状況が「良くなった」割合－「悪くなった」割合

注 3）物価が「高くなった」割合－「安くなった」割合

調査の実施要領

調査時期：2023 年 11 月 17 日（金）～ 11 月 26 日（日）

調査対象：宮崎県内の給与所得者等

調査方法：インターネットアンケート（マクロミル社）

回答者数：523 人

回答者の属性（単位：人、％）

年代別	人数	構成比	世帯別		人数	構成比	性別	人数	構成比	職業	人数	構成比
20歳代以下	104	19.9	独身		233	44.6	男性	261	49.9	会社員	462	88.3
30歳代	140	26.8	既婚	子供有り	243	46.5	女性	262	50.1	公務員	61	11.7
40歳代	149	28.5		子供無し	47	9.0	合計	523	100.0	合計	523	100.0
50歳代以上	130	24.9	合計		523	100.0						
合計	523	100.0										

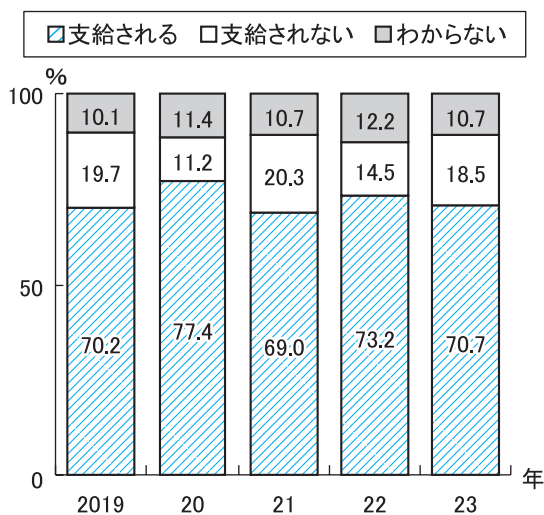
※本レポートの図表は、四捨五入の関係で、内訳の総和と合計が必ずしも一致しない

1. ボーナス支給の有無と増減見込み

(1) 「支給される」が70.7%

冬のボーナスは「支給される」の割合が70.7%と前年比2.5 P低下した。一方「支給されない(18.5%)」は同4.0 P上昇した(図1)。

図1. 冬季ボーナス支給の有無

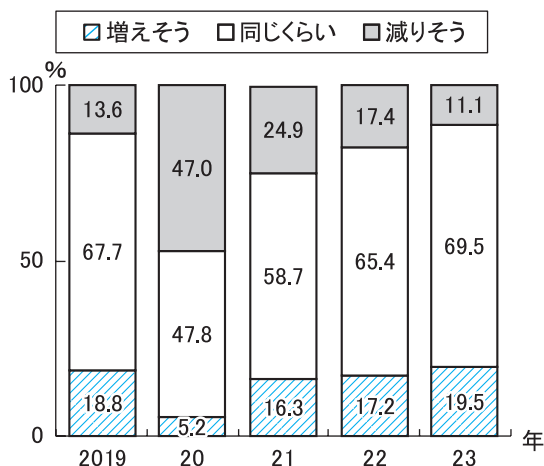


(2) 増減見込みは「同じくらい」が最多

「支給される」回答のうち、ボーナスの増減見込みは「同じくらい(69.5%)」「増えそう(19.5%)」「減りそう(11.1%)」となった(図2)。

「増えそう」は2020年以降、3年連続で前年を上回った。

図2. 冬季ボーナスの増減見込み



2. ボーナスの見込み額

「10万円～30万円未満」が最多

ボーナスの見込み額は、全体で「10万円～30万円未満(42.2%)」が最も多く、「30万円～50万円未満(27.6%)」と続いた(図3)。

会社員は、「10万円～30万円未満(47.1%)」が最も多く、前年比+0.8 Pとなった(表1)。

図3. ボーナスの見込み額

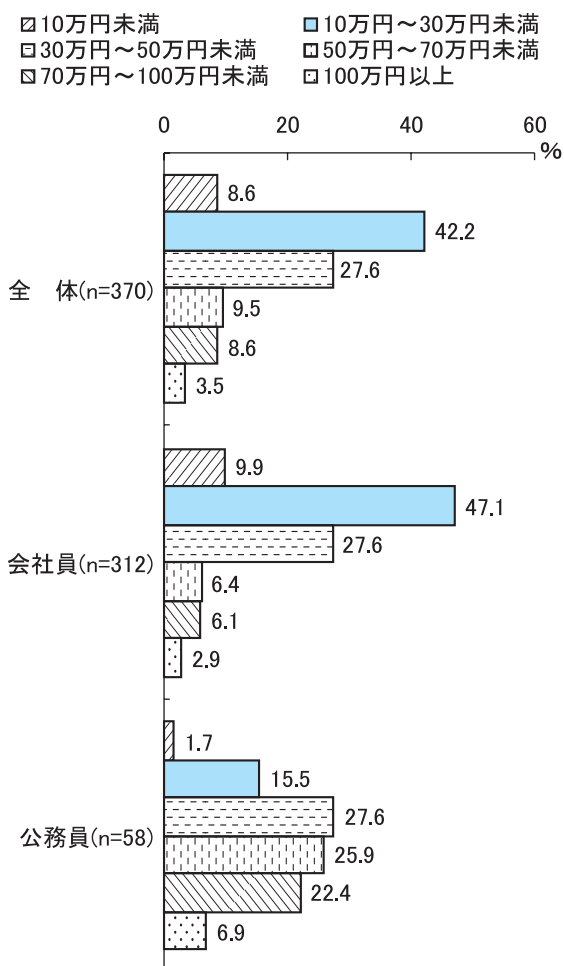


表1. 会社員の見込み額

(単位: %, P)

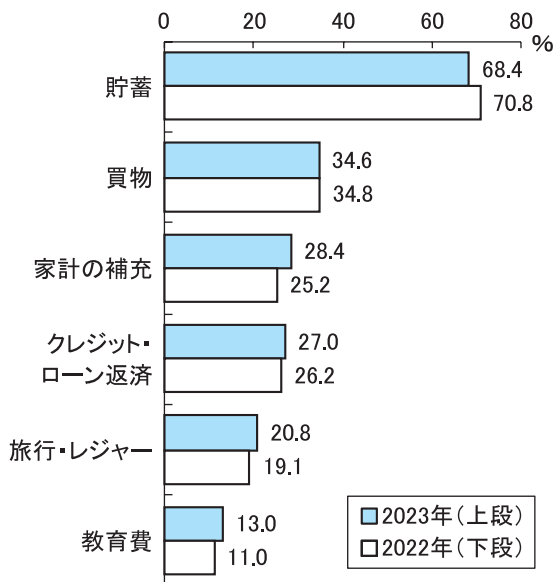
	10万円未満	10万円～30万円未満	30万円～50万円未満	50万円～70万円未満	70万円～100万円未満	100万円以上
2023年	9.9	47.1	27.6	6.4	6.1	2.9
2022年	11.4	46.3	26.6	8.9	4.0	2.9
前年比	▲1.5	0.8	1.0	▲2.5	2.1	0.0

3. ボーナスの使いみち(複数回答)

「貯蓄」が最多

ボーナスの使いみちは「貯蓄(68.4%)」が最も多く、以下「買物(34.6%)」「家計の補充(28.4%)」「クレジット・ローン返済(27.0%)」と続いた(図4)。前年比では「家計の補充(+3.2P)」「教育費(+2.0P)」が上昇し、「貯蓄(▲2.4P)」は低下した。

図4. ボーナスの使いみち(複数回答)



(1)「貯蓄」

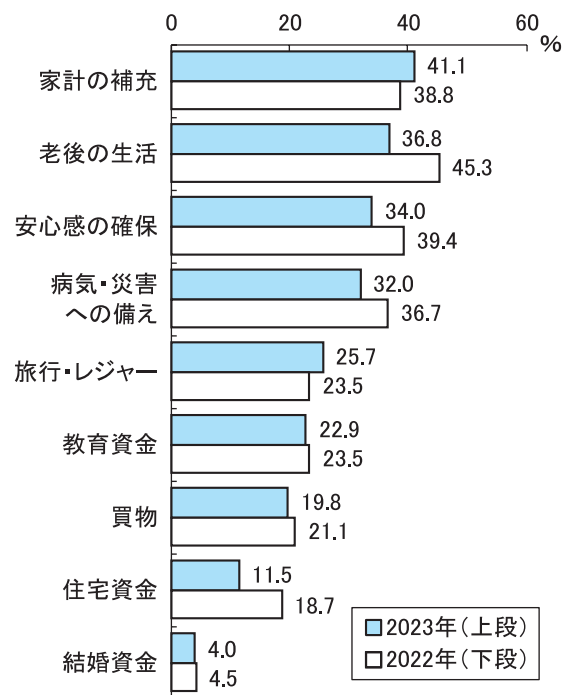
①貯蓄の目的(複数回答)

「家計の補充」が最も多い

貯蓄の主な目的は「家計の補充(41.1%)」が最も多く、「老後の生活(36.8%)」「安心感の確保(34.0%)」と続いた(図5)。

前年比では、「老後の生活(▲8.5P)」「安心感の確保(▲5.4P)」「病気・災害への備え(▲4.7P)」等は低下し、「家計の補充(+2.3P)」「旅行・レジャー(+2.2P)」は上昇した。

図5. 貯蓄の目的(複数回答)

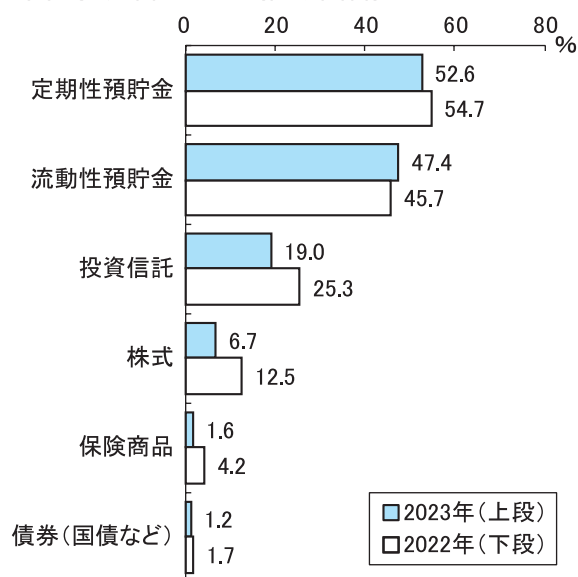


②貯蓄の方法(複数回答)

「定期性」「流動性」預貯金が多い

貯蓄の方法は、「定期性預貯金(52.6%)」「流動性預貯金(47.4%)」「投資信託(19.0%)」となった(図6)。前年比では「投資信託(▲6.3P)」「株式(▲5.8P)」等、リスク性金融商品の低下が目立った。

図6. 貯蓄の方法(複数回答)



(2)「クレジット・ローン返済」

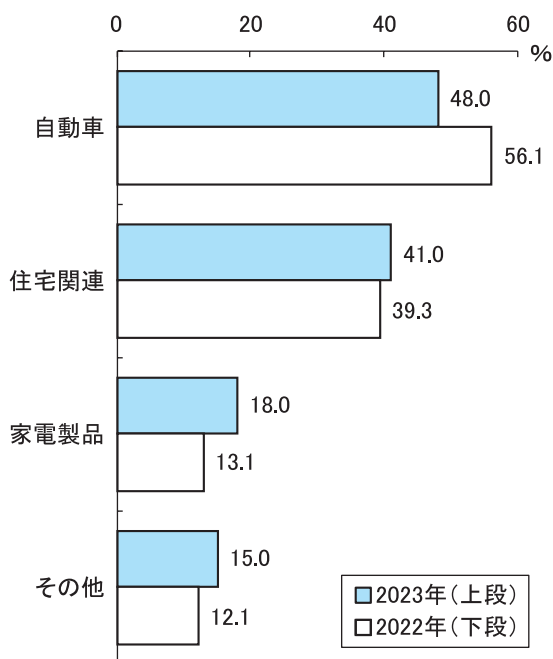
(複数回答)

「自動車」が48.0%

クレジット・ローン返済では「自動車(48.0%)」が最も多く、次いで「住宅関連(41.0%)」となった(図7)。

前年比では「自動車」が8.1P低下した一方、他の項目は上昇した。

図7. クレジット・ローン返済予定の内容(複数回答)



(3)「買物」

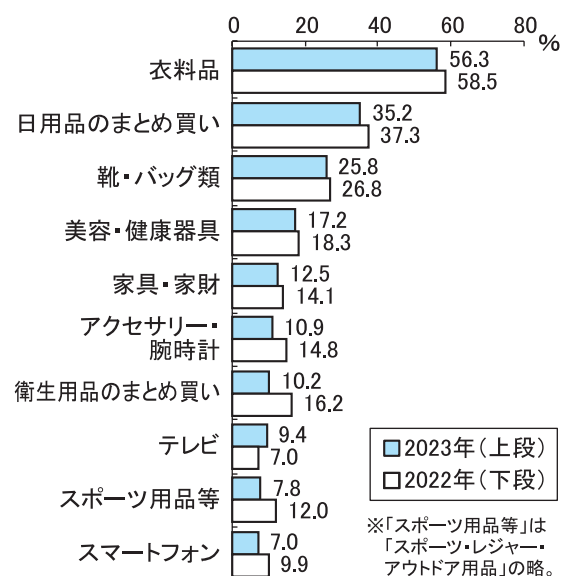
①購入予定品(複数回答)

「衣料品」が最多

購入予定品は「衣料品(56.3%)」「日用品のまとめ買い(35.2%)」「靴・バッグ類(25.8%)」となった(図8)。

前年比では新型コロナウイルス感染症(以下「コロナ」)の感染者数の減少から「衛生用品のまとめ買い(▲6.0P)」が低下したほか、「テレビ」を除く全商品で前年を下回った。

図8. 購入予定品(複数回答)



②買物予定先の店舗形態(複数回答)

「ショッピングセンター」がトップ

買物予定先の店舗形態では、「ショッピングセンター(大型店)(以下「SC」)(54.7%)」が最多で、「通販・ネット販売(41.4%)」が続いた(表2)。

居住地別では、3市とも「SC」が最多で、「延岡市」は72.2%と3市の中で最も多かった。

「通販・ネット販売」は2020年冬季調査より1位が続いていたが、今回2位に後退した。

表2. 買物予定先の店舗形態(複数回答)

(単位: %)

買物先 居住地	SC (大型店)	通販・ ネット販売	デパート	スーパー	家電 量販店	ドラッグ ストア
全 体	54.7	41.4	25.8	23.4	21.9	21.9
	45.1	55.6	21.8	29.6	17.6	26.8
宮崎市	53.2	40.4	27.7	23.4	29.8	23.4
	48.9	55.6	37.8	31.1	17.8	22.2
都城市	54.5	45.5	22.7	22.7	18.2	27.3
	44.4	48.1	18.5	37.0	14.8	29.6
延岡市	72.2	55.6	27.8	44.4	27.8	27.8
	50.0	73.1	19.2	30.8	26.9	34.6

回答者数 128人

※上段: 2023年 下段: 2022年

③買物予定地（複数回答）

居住地別では、「日南地区」を除く全ての地区で地元を買物予定地とする回答が最も多かった。「日南地区」は「宮崎市（71.4%）」が最多であった（表3）。

「県外」は、「宮崎地区」「都城地区」「延岡地区」で前年を下回った。

※ 地区名と居住地内訳

宮崎地区	宮崎市、西都市、東諸県郡、児湯郡
都城地区	都城市、北諸県郡
延岡地区	延岡市、日向市、東臼杵郡、西臼杵郡
日南地区	日南市、串間市
小林地区	小林市、えびの市、西諸県郡

表3. 買物予定地（複数回答、居住地別）

（単位：％）

買物地 居住地	宮崎市	都城市	延岡市	日南市	小林市	県外
宮崎地区	93.0	—	—	—	—	1.8
	98.3	1.7	—	—	1.7	5.2
都城地区	38.5	88.5	—	—	—	15.4
	56.7	83.3	—	—	—	16.7
延岡地区	37.5	—	62.5	—	—	21.9
	40.0	2.2	62.2	—	—	28.9
日南地区	71.4	28.6	—	42.9	—	—
	50.0	25.0	—	50.0	—	—
小林地区	50.0	50.0	—	—	66.7	—
	80.0	40.0	—	—	80.0	40.0

回答者数 128 人

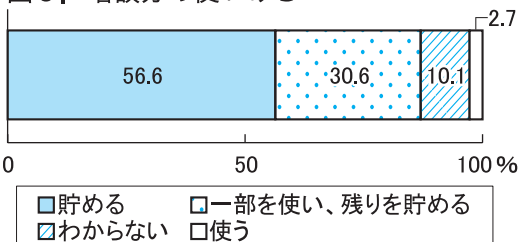
※上段：2023年 下段：2022年

コラム

Q. ボーナスの受給額が増えたら、増額分はどうしますか？

増額分の使いみちは「貯める（56.6%）」、次いで「一部を使い、残りを貯める（30.6%）」となった（図9）。

図9. 増額分の使いみち



4. 最近の県外での買物動向

(1) 買物頻度

最近1年間の、県外九州5市への買物頻度は、全ての市で「1回」が最も多かった（表4）。

表4. 県外での買物頻度（複数回答）（単位：％）

頻度	福岡市	北九州市	大分市	熊本市	鹿児島市
1回	54.4	50.0	53.8	54.3	48.9
	43.7	56.3	49.2	50.4	53.1
2～4回	34.6	40.4	34.0	32.1	37.1
	47.9	22.9	32.5	32.6	29.2
5～9回	6.6	5.8	9.0	8.6	9.6
	3.4	12.5	12.7	9.3	9.2
10回以上	4.4	3.8	3.2	4.9	4.5
	5.0	8.3	5.6	7.8	8.5

回答者数 182 人

※上段：2023年 下段：2022年

(2) 交通手段

県外九州5市への交通手段は全ての市で「乗用車」が最も多く、大分市、熊本市、鹿児島市は全体の9割超が「乗用車」と回答した（表5）。前年比でも「乗用車」が熊本市を除く全ての市で上昇した。

表5. 県外九州5市への交通手段（単位：％）

交通手段	福岡市	北九州市	大分市	熊本市	鹿児島市
乗用車	68.7	71.2	92.0	90.4	91.7
	61.3	68.8	89.7	92.2	90.8
高速バス	11.0	7.7	4.9	3.4	1.9
	16.0	14.6	4.0	5.4	3.1
JR	6.6	17.3	2.5	6.2	5.8
	3.4	10.4	6.3	2.3	6.2
飛行機	9.3	1.9	—	—	—
	15.1	4.2	—	—	—
B&S(※)	3.3	1.9	—	—	—
	4.2	2.1	—	—	—

回答者数 182 人

※上段：2023年 下段：2022年

※「B & S みやざき」の略称。Bus & Shinkansen の頭文字で、博多駅～新八代駅(熊本)～宮崎駅間を新幹線と高速バスで運行する

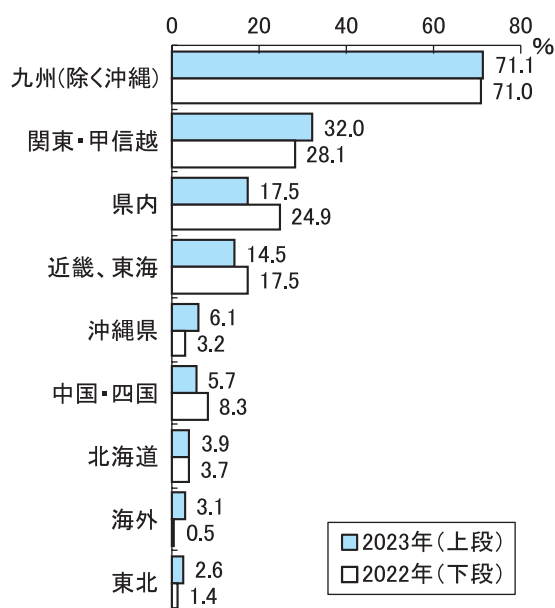
5. 今後の旅行・レジャーの行先

(複数回答)

「九州（除く沖縄）」が最多

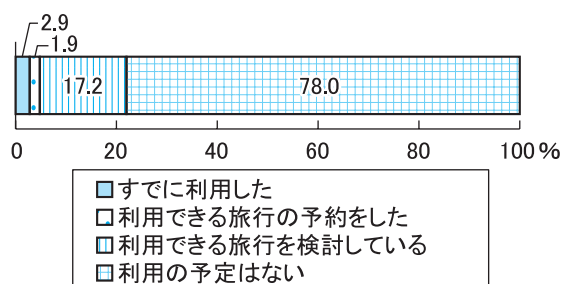
今後の旅行・レジャーの行先は、「九州（除く沖縄）（71.1%）」が最も多く、「関東・甲信越（32.0%）」と続いた。「県内（17.5%）」は前年比7.4 P低下した（図10）。

図10. 今後の旅行・レジャーの行先（複数回答）



2023年10月26日～2024年1月31日の間、本県に宿泊する旅行者に飲食・体験・土産代を補助する「秋冬泊まっ得！Welcome みやざきキャンペーン」の利用では「利用の予定はない（78.0%）」が最も多かった（図11）。

図11. キャンペーンの利用状況



6. 現在の生活状況

全体では「変わらない」が52.2%

現在の生活状況は、全体では「変わらない（52.2%）」が最も多く、「悪くなった」は39.8%、「良くなった」が8.0%で、生活状況DIは▲31.8となった（表6）。

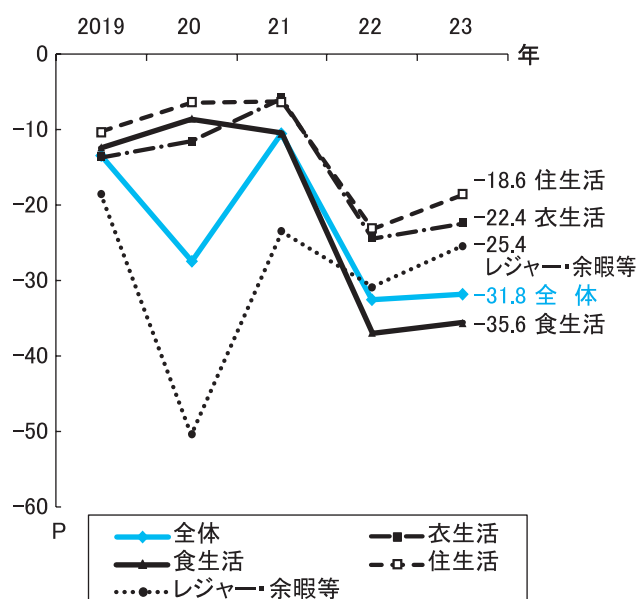
前年比では「全体」で+0.7 Pと、ほぼ横ばいであった。項目別では総じて前年よりやや改善し、「レジャー・余暇等（▲25.4）」はコロナ禍で行動制限のあった前年より5.5 P改善した。（図12）。

表6. 現在の生活状況 (単位: %, P)

生活状況	良くなった	変わらない	悪くなった	D I
全 体	8.0	52.2	39.8	▲ 31.8
衣 生 活	6.8	53.9	39.3	▲ 32.5
食 生 活	5.7	66.2	28.1	▲ 22.4
住 生 活	8.8	46.8	44.4	▲ 35.6
レジャー・余暇等	6.3	68.8	24.9	▲ 18.6
	5.0	66.8	28.2	▲ 23.2
	10.7	53.2	36.1	▲ 25.4
	8.1	53.0	39.0	▲ 30.9

※上段: 2023年 下段: 2022年

図12. 生活状況DIの推移



7. 現在の物価状況

現在と前年の物価を品目別に比較した状況は、全ての品目でD Iがプラスとなり、「物価高」を象徴する結果となった(表7)。

品目別では、「食品(生鮮食品を除く)(+89.1)」が最も高く、「日用品(+76.1)」「耐久消費財(+72.2)」と続いた。

前年比では「外食費(+5.3P)」「娯楽・趣味(+3.5P)」「耐久消費財(+3.0P)」が上昇し「光熱水道費(▲6.9P)」「住居費(▲5.2P)」は低下した。

表7. 品目別物価状況 (単位: %、P)

品目 \ 物価	高い	不変	安い	D I (A)	前年 (B)	前年比 A-B
食品（生鮮食品を除く）	90.1	8.9	1.0	89.1	91.1	▲2.0
日用品	79.3	17.5	3.2	76.1	78.1	▲2.0
耐久消費財	73.4	25.4	1.2	72.2	69.2	3.0
交通費	73.4	24.9	1.6	71.8	69.6	2.2
光熱水道費	73.7	23.0	3.3	70.4	77.3	▲6.9
嗜好品（酒等）	69.6	27.6	2.8	66.8	67.6	▲0.8
外食費	71.4	22.9	5.7	65.7	60.4	5.3
家具・家事用品	61.5	35.9	2.6	58.9	60.0	▲1.1
娯楽・趣味	56.0	39.0	5.0	51.0	47.5	3.5
被服・履物	53.7	43.2	3.1	50.6	51.2	▲0.6
教育費	44.0	51.1	4.9	39.1	37.2	1.9
通信費	41.7	52.5	5.8	35.9	40.7	▲4.8
医療費	37.1	60.3	2.5	34.6	37.6	▲3.0
保険料	37.6	57.7	4.7	32.9	36.9	▲4.0
住居費	26.4	71.5	2.1	24.3	29.5	▲5.2

8. 投資について

投資については、全体の31.2%が「投資の経験があり、現在も投資している」と回答し、「投資の経験はないが、興味はある(28.9%)」と合わせた約6割が投資について前向きな回答をした(図13)。

投資している(してみたい)商品は、「投資信託(56.4%)」が最も多く、次いで「株式(51.0%)」「個人年金保険(23.0%)」と続いた(図14)。

図13. 投資への経験と興味

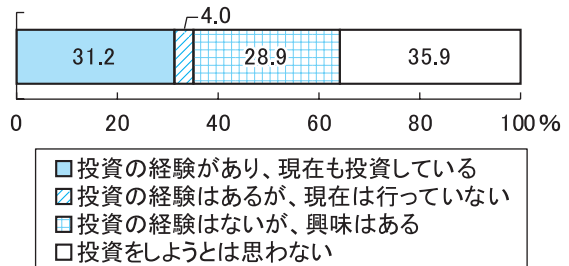
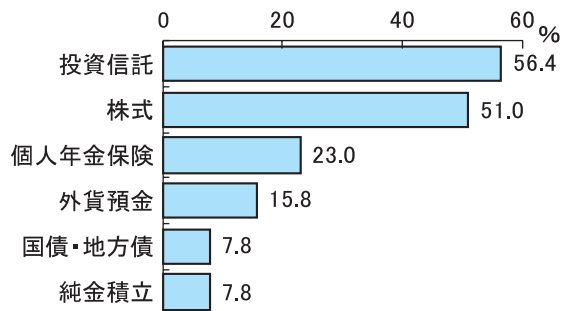


図14. 投資している(してみたい)商品 (複数回答)



9. まとめ

今回の調査は、ボーナス支給額の増加を見込む回答が増えたが、使いみちは、家計を補充するために貯蓄する回答が多かった。買物品目は「衣料品」「日用品のまとめ買い」、買物先は通販・ネットショップが減り、SCが増えた。旅行・レジャー先では、九州や関東地方の回答が多かった。物価状況D Iは高止まりの傾向で、「娯楽・趣味」「外食」などサービス関連品目の上昇が見られた。生活状況D Iは前年とほぼ同様で、依然マイナスの状況にある。今後も物価の動向は予測を許さない状況で、節約志向の消費が続くと考えられる。(勝池)